

令和元年度宜野湾市総合戦略推進委員会
議事要旨

日時：令和元年7月31日（水）午後2時～午後4時
場所：宜野湾市役所 2階 庁議室

出席者	委員 (9名)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 瀬口 浩一 (琉球大学国際地域創造学部教授) (委員長) ■ 福里 清孝 (宜野湾市商工会会長) (副委員長) ■ 高里 健作 (宜野湾市観光振興協会会長) ■ 島袋 司 (沖縄銀行普天間支店支店長) ■ 宇根 信明 (連合沖縄中部地域協議会副議長) ■ 佐喜眞 裕子 (認可保育園園長会) ■ 新城 嘉隆 (宜野湾市自治会会長 野嵩1区自治会会長) ■ 宮園 峰子 (宜野湾市婦人連合会 副会長) ■ 米須 良清 (宜野湾市企画部長)
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ■ 松本 勝利 (企画部次長兼企画政策課長) ■ 本永 貴也 (企画政策担当主幹兼係長) ■ 玉城 進吾 (企画政策担当主査) ■ 安里 美亜紀 (企画政策係主任主事)
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状交付式 3. 市長挨拶 (企画部長代読) 4. 議題 (進行：委員長) <ul style="list-style-type: none"> (1) 宜野湾市総合戦略及び委員会の概要について (事務局報告) (2) 宜野湾市の人口推計について (事務局報告) <ul style="list-style-type: none"> ①事務局説明 ②質疑応答 (3) 総合戦略における具体的施策の効果検証 (平成30年度実施分) について <ul style="list-style-type: none"> ①事務局説明 ②評価・意見 (質疑応答含む) 5. 次期総合戦略の策定について 6. 閉会 	

資料	<p>資料1 委員名簿</p> <p>資料2 宜野湾市総合戦略推進委員会設置規則</p> <p>資料3 平成30年度効果検証シート</p> <p>資料4 宜野湾市総合戦略推進委員の評価・意見（平成29年度分）</p> <p>資料5 宜野湾市の人口推計について</p> <p>資料6 次期総合戦略の策定について</p> <p>※当日配布資料 意見・提言用紙</p> <p>※委員持参資料 宜野湾市まち・ひと・しごと創生総合戦略</p>
----	--

委員長	<p>今回の会議は、平成30年度の具体的施策の効果検証を行うことを目的としております。評価及び意見に関しましては、会議終了後、事務局の方で取りまとめた後、市ホームページにて公表いたします。委員の皆様におかれましては、短時間になりますが、それぞれの分野の視点から意見をいただき、活発にご議論をいただければと思いますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。</p> <p>ただ今から議題を進行させていただきます。本日の出席委員は9名でございます。過半数に達していますので、会議は成立いたします。では、議題(1)宜野湾市総合戦略及び委員会の概要について及び議題(2)宜野湾市の人口推計についてをまとめて事務局より報告願います。</p>
-----	---

事務局	<p>新しくご就任いただきました、委員の皆様もいらっしゃいますので、改めて、宜野湾市総合戦略の概要について報告させていただきます。また、宜野湾市の人口推計についてもあわせてご報告いたします。</p> <p>宜野湾市まち・ひと・しごと創生総合戦略の1ページをご覧ください。まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけにありますとおり、国は急速な少子高齢化に対応し、人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある日本社会を維持するため、「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を制定し、地方創生に取り組んでいます。</p> <p>本市においても国の総合戦略を勘案し、「宜野湾市人口ビジョン」及び「宜野湾市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口に関する本市の目指すべき方向性と将来展望や、それを踏まえた5か年間の目標や施策、指標をまとめた計画です。国・県の総合戦略の概要については、8ページ、9ページに記載されておりますので、詳細は割愛します。後ほどご確認ください。</p> <p>続いて市の総合戦略の概要についてですが、3ページから4ページをお開きください。総合戦略を策定するにあたり、前提条件としまして、2060年までの将来人口を推計した人口ビジョンを策定しております。本市の場合、目指すべき将来の方向性である合計特殊出生率2.57及び子育て世代の転入・転出の均衡を図ることで2060年に約109,700人を人口の将来展望として数値化しております。</p> <p>本市の総合戦略ですが、10ページにありますとおり、国・県の総合戦略を踏まえ、「雇用」「交流」「結婚・出産・子育て」「地域づくり・連携」における「ひとづくり」</p>
-----	--

	<p>を重視して施策を展開し、市民が安心して住み続けられる魅力あるまちづくりへ繋げていくこととしております。</p> <p>具体的な進捗状況については、このあとの議題3で状況を説明致します。</p> <p>続いて、議題（2）宜野湾市の人口推計についてご報告いたします。</p> <p>資料5をご用意ください。</p> <p>～資料5を読み上げて説明～</p>
委員長	<p>事務局より報告のありました議題1、議題2に関しまして、委員の皆様よりご意見等がございましたらお願いします。</p>
委員	<p>人口の増減は居住する場所の有無と相関関係があると思いますが、宜野湾市はそもそも住む場所があるのか。また、普天間基地が返還されたことを見据えてのことなのか確認したいです。</p>
事務局	<p>この推計データには基地跡地利用という点は考慮されていません。</p>
委員	<p>では、返還された場合は、現在の推計よりも人口は増えると考えていいですか。</p>
事務局	<p>返還された場合は、普天間基地及び西普天間もですが、当然その跡地に住宅ゾーンができますので、市外からの転入者は見込めると予想されます。</p>
委員	<p>西普天間について、琉大病院が移転され、そこにも住宅ゾーンができますが、そのまちづくりについては、市の戦略的な施策には入っていないのですか。</p>
事務局	<p>現在の計画は令和元年度までの計画であり、策定時には跡地利用できる環境ではなかったため、西普天間について特に記載がありませんでした。来年度、次期計画を策定予定であり5年間の計画となりますので、その中で区画整理事業の進捗により、新たに加味していくことも考えられます。</p>
委員	<p>毎年の出生数はどれくらいですか。以前は1,000人～1,200人だったと思いますが、増減がどうなっているかを確認したいです。</p>
事務局	<p>出生数の資料が手元になく、詳細な数値は担当部署へ確認してご回答しますが、月100人程度の出生数であり、以前と比べて大きな変動はないかと考えられます。</p> <p>（平成28年～30年の3年平均値は約1,200人。宜野湾市統計書より。）</p>
委員長	<p>議題（3）総合戦略における具体的施策の効果検証（平成30年度実施分）について事務局よりご説明をお願いします。最初に基本目標①、②を説明して頂き、意見交換、質疑応答を入れます。その後基本目標③、④の説明をして意見交換、質疑応答という流れでお願いします。</p>
事務局	<p>総合戦略の体系として、4つの分野に基本目標を設定し、基本的方向に基づいて具体的な施策に取り組んでいるところであります。資料3は、それぞれ設定したKPI指標を事業担当課にて評価したものとなります。</p> <p>全体として41本の目標値が設定されており、平成29年度より、担当課評価が向上しているものが、41本のうち4本、低下しているものが8本となっております。詳細については、時間が限られているため、事務局にて、重点的に取り組んでいる取り組みを中心に説明したいと思っております。なお、本日「意見提言用紙」も配布しております。後日お気づきになった点などありましたら、ご提出いただければと思います。</p>

	以降、資料5を用いて基本目標①、②を説明。
委員長	では基本目標①、②についての質疑や意見交換を行います。その際、なるべく委員の皆さま同士での活発な意見交換をよろしくお願いいたします。
委員	<p>1ページの事業所内保育所について、国から直接交付される補助金であることや回答までの期間が短いという点から、企業主導型を選択する事業者が増えてきました。しかし一方で、保育に関する素地のないところや、沖縄県や宜野湾市の実情を分らない県外企業の参入、また2歳児までしか受け入れられない保育園もあり、3歳児になったときに、受け入れ先がないのではないかと、という問題もあります。</p> <p>企業主導型になり、保育士の子を優先的に入所させることができたという点で、保育士不足を解消する施策の1つにはなっていると考えられます。現在宜野湾市でも様々な保育士不足を解消するための事業を実施しており、現在、ニーズ調査をしているということであれば、施設整備の必要性和合わせてどのような声が上がってくるのかその結果を踏まえて考えてほしいと思います。</p>
委員	企業主導型保育ということですが、企業内に保育所を作ってほしいという企業がそもそもどれくらいあるのかはわかりますか。
事務局	委員が仰ったように、企業主導型は国へ直接申請する形になるので、市を経由していないこともあり、どれくらい要望があるのか把握はできておりません。
委員	3ページの基本目標②について、横浜 DeNA ベイスターズに関して「グリーンコミュニティ事業」は、実施上の課題として動員が挙げられています。しかし現在、動員は十分足りており植え付けする花のほうは足りなくらいです。課題としては動員ではなく、キャンプに来た際に市民全体で受け入れるという雰囲気づくりをしてほしいです。例えばキャンプ期間中は役所の1階窓口等はみんなユニフォームを着て歓迎ムードを作るなど。現在、西海岸地域はノボリを立てて、青一色というカラーが見られますが、横浜市やほかの自治体は全体的に歓迎ムードを作って、とても賑わっていますので、もっと市全体として盛り上げる雰囲気づくりを今後の取り組みとして入れてほしいです。
委員	雰囲気を盛り上げる方法の1つとして皆でユニフォームを着るということですが、そのユニフォームは行政が予算化できるのか、それとも独自で購入するのか。また、まち全体でということだと市民が集まるお店や金融機関の窓口の方が着ているのもいいと思いますが、そのような場合どこが主導的にこの取り組みを進めていくのか。
委員	毎年キャンプの際はラグナガーデンホテルにおいて、ベイスターズ歓迎のタベという催しを行っていますが、来場者はほとんどが県外からの熱狂的なファンです。観光協会としては沖縄県、宜野湾市の皆さんに、この機会に選手と身近に交流を持ち、ベイスターズのファンになってほしいという思いもあります。外からの収入が入ってくるという点ではいいかもしれませんが、もっと市民にも興味を持ってほしいと感じています。その仕掛けづくりを一緒にやっていけないかと思っています。
事務局	他市町村において、1階窓口が皆でユニフォームを着て業務をしているのはどういう仕組みで行っているのか聞き取りしたいと思います。本市は担当課（観光農水課）

	皆でユニフォームを着用していますが、一部ベ이스ターズからの提供で着用しております。ただ、公費支出は厳しいと考えられるので、その資金をどのように集められるのか、担当課や観光振興協会と連携して考えていきたいと思ひます。
事務局	資料5を用いて基本目標③、④を説明。
委員長	基本目標③、④についての質疑や意見交換を行います。
委員	8ページの生ごみ処理機は家庭用のディスポーザーのことですか。また積極的に活用するように推進しているのですか。
委員	本市は下水道へ直接接続するディスポーザーは認めていません。
事務局	担当課としては、ごみの減量化を図るため生ごみ処理機の補助をはじめとした様々な事業を実施しております。しかし周知不足という側面もありますが、一部実施事業の見直しも検討しているという状況です。
委員	<p>4ページの一時預かり保育と地域子育て支援拠点事業について、平成30年度の実績値よりも今年度（令和元年度）さらに1か所が保育士不足により減っています。しかし実は数として保育士は増えてきております。なぜ保育士不足になるのかというと、宜野湾市は他市町村に比べて特別支援の子どもたちへの対応が良く、1対1でしか対応できないような子も受け入れており、市外から引っ越してくる人もいます。（国基準では3人に対して1人の保育士だが、それを上回る数で予算をつけて対応している。）その結果、公立保育所では特別支援にあたる保育士、普通保育にあたる保育士の必要数が増え、保育士不足ということになっていることをご理解いただきたいです。</p> <p>また5ページの「支援の必要な児童・生徒への支援率」や「放課後等デイサービス利用人数」、「日中一時支援利用人数」がありますが、まず支援の在り方についての方向性を決めたほうが良いのではないかと感じます。支援の必要な子の親の立場で考えたときに、何をしてもらったら双方がより明るい未来へ進むことができるのか、何かをやめさせたり直させたりということではなく、何に困っているのかどうやって寄り添っていけるかを考えたりできないか。例えば小学校では特別支援学級に行くよりも通常学級に行くことが良いこととされていたりします。（特別支援学級を卒業できた。という考え方）しかし、その子にとっては特別支援学級で学んだほうがより成長できたという場合もあります。他人から見た上のクラスに行けたから支援ができた、ということではなく、そこでまた新たな問題が起きたりして、結局子どもがその中で生きづらさを感じたり、ついていけなかったり、ということもあるので、行政としても支援の方向性や考え方を統一しないと問題の解決に繋がりにくいと感じます。</p> <p>もう1つは、現在夏休み期間に入っており、家庭でご飯が食べられない子たちもいますが、自治会などで子どもの居場所などはどういう状況ですか。他にも地域の子ども食堂など取組状況をお聞きしたいです。保育所として何か手伝えることはないのか考えたいと思ひます。</p>
委員	居場所作りについては、自治会では貧困対策というよりは孤食をなくするというテーマで実施しています。毎月30人前後の子どもたちが来ています。しかしその中で貧困である子、そうでない子という区別をすることはできません。

委員	先ほどの発達などが気になる子の中には、家庭でのネグレクト等の養育不全が理由ではないかと思われる子もいます。そういう子をなるべく未然に防げるように、地域で居場所づくりが活発になってきているので、保育所としても何か協力したいなと考えています。今後情報提供をして頂いて連携して何か出来たらいいなと思います。
委員	食改（食生活改善推進委員）でも、子ども食堂の取組で手伝いを自治会に頼まれ、子どもたちとサンドイッチを作ったり、流しそうめんをしたりしましたが、それも行政で計画された取組なのか、自治会が自主的にやっているのか、分かりますか。
委員	生活福祉課が間に入って、実施していると思われます。
事務局	事業補助ができる場合と、あと自治会に担い手がいるかという問題もあると思いますが、自治会が積極的なところは食改さんや近隣の方へ声掛けを行い実施していると思います。
委員	先ほどの保育士不足に関連して、保育士さんの労働環境はどうなっているのかと思いました。私の会社でも人手不足が起きた時に、辞める理由を聞くと契約社員という形態上、将来が見通せないということでした。それを改善するために一部、契約社員を正社員へ登用する制度を作り、人材流出を防いだことがあります。保育士不足に関して、様々な対策は取られていると思いますが、労働環境という点ではどうなのか教えていただきたいです。
委員	保育士の給与については、以前より良くなっていて初年度で総支給額が約 17,18 万あります。20 万というところも出てきています。また、ベテランになれば手当もつくので、年収 400 万、500 万の保育士は増えてきています。しかし、キャリアをもらうまでの間の保育士たちの年々の上がりはそれほど大きくないです。休みについても、上司から休日取得の声掛けをするようになり、以前より休みやすくなっているとは思いますが。持ち帰り残業やサービス残業もだいぶ改善されており、全国では労働局が入り、裁判沙汰になっている案件もあるので、全体的に意識改革もされてきていると思います。しかし昔と違い、今の保育士は保育のことだけではなく、地域のことや業者との調整、なおかつ保育現場の育成という役割もあるので、内容がとても煩雑化しています。また、保育の ICT 化なども進んでくると、それに対応するための勉強会や研修会に参加する必要があったりします。しかし沖縄県は、宜野湾市もですが認可外保育園が多いという現状がありますが、認可外保育園がそういう煩雑化した役割をどこまでできているのか、ということも不透明な部分があります。
委員	色々な面で改善がされているということで、安心しました。
委員長	では、ここからは全体的な質疑や意見交換に移りたいと思います。
委員	6 ページの「子どもの居場所づくり」について、ボランティア団体というのは自治会の団体のことですか。どういう構成員で活動しているのか教えてください。
事務局	市生活福祉課がまとめている子どもの居場所については、野嵩 1 区、普天間 3 区、我如古区、「はぴわん食堂」、「そいそいハウス」、「グッドモーニング・カフェ」、「はごろも子ども食堂」の 7 か所です。中身については、民間団体が自主的に行っている場合と、行政が支援している場合とで分かれています。

委員	<p>普天間3区と我如古区については、他とシステムが異なっており、有償ボランティアを設置しております。週に何回、月に何回というような枠も決まっております。しかしそういう条件を満たすことのハードルが高く、他は自主的に子どもの居場所ということで設置しておりますが、材料費だけ等であれば助成金も出るということで、生活福祉課を通してボランティア団体として活動しております。メンバーについては、こども会等のお母さんたちが頑張ってくれています。</p>
事務局	<p>有償ボランティアということですが、それらの事業を生業として実施しているのではなく、あくまで地域住民の皆さんの協力を得て、無償ボランティアで実施しているところと、事業を長く継続させるために、実費相当分に対して支払いをしているもの(有償ボランティア)ということだと思います。基本は全てボランティアです。</p>
委員	<p>この事業で収益をあげているわけではないということで、NPO法人みたいなものですか。</p>
事務局	<p>2団体はNPO法人ということで実施しています。また、社会福祉法人で実施しているところも1か所ございます。</p>
委員	<p>同じく子どもの居場所づくりについて、今後の取り組みとして「連絡会議を設ける。」とありますが、その構成員は7か所のボランティア団体からも出されて設置するのですか。</p>
事務局	<p>はい。居場所間の横の連携が必要ということで、現在、子どもの居場所が地域間で偏っているという面もあり、生活福祉課としては全地域に満遍なく設置したいという方針もあるので、情報共有を図れる場として連絡会議を設置するということです。</p>
委員	<p>2ページの小口融資制度について、銀行としても担保や県の保証協会に依存しないような形で、事業性評価というものを数年前から取り入れ、経営者が借り入れしやすいように取り組んでおり、小口融資件数が減少している1つの原因にもなっているかもしれませんが、この件数の内訳として業種はわかりますか。</p>
事務局	<p>手持ちの資料では融資件数の業種までは記載がないので、担当課へ確認して回答したいと思います。(担当課へ確認。3件中、小売業が2件、美容・サービス業が1件。)</p>
委員	<p>新規で事業を始めたい場合、融資に際して事業計画書等を精査し事業性の評価を行います。初めての方はその計画書をどう作成していいかわからないという場合があります。小口資金融資についても、そのような相談者がいましたら商工会等に相談に対応していると思いますが、金融機関としても何かできればと思っています。</p>
事務局	<p>現在、市の財政状況についても大変厳しい状況になっています。小口資金融資についても、金融機関や県の機関などのほうが枠や柔軟性が良いということで、利用者が少なくなってきたということも聞いています。今後、融資に関して相談などがあった場合は、関係団体と連携を取っていきたいと考えております。</p>
委員	<p>1ページの空き店舗対策補助事業について、普天間には門前まち構想もあり区画整理などが進められてきていますが、今後の取り組みの「リフォーム補助」についてはもう予算も確定しているのですか。</p>
事務局	<p>今年度(令和元年度)から予算化をしています。</p>

委員	<p>空き店舗物件の状況把握などはしているのですか。実施上の課題に「目標設定が困難」とありますが、把握が困難なのか、設定が困難なのか。</p>
事務局	<p>例えば1か月に1度巡回して、空き店舗物件を把握したとしても、次に巡回するときには空き店舗が増えており、それにより分母が増えることがあります。空き店舗が何件あるかは足で稼がなければならず、正確な数字を出すことが困難であり、担当課としては課題に挙げております。しかし商工会へ委託をすることで、以前よりも把握については強化が図られていると考えております。</p>
委員	<p>補足として、中には実態がないのに看板だけ設置されていて事業をしていなかったり、移転しているのに外観がそのまま営業しているように見えたりするケースもあり、調査員がその実態を把握することは非常に困難です。</p> <p>空き店舗対策を商工会が積極的に実施しているのは、単なる補助事業ではなくそこに経営指導を入れることですぐに廃業することを防ぎ、解消した空き店舗がまた空き店舗に戻らないよう定着させることを目的に実施しております。また、先ほど門前まち構想という話がありましたが、あの地域は駐車場不足も課題となっています。商店街を活性化させるためには、空き店舗対策事業だけではなく、駐車場の整備や一体的なまちづくりを同時に進めていくことが大きな課題だと思います。</p>
委員	<p>空き店舗物件の状況把握については、税務情報から分かるのではないですか。</p>
事務局	<p>店舗用の建物なのか、住居用の建物なのか、という区分の問題や、担当課の考えとしては、おそらくいつ時点と期間を定めて把握することは可能だと思いますが、随時流動するものなので、市内全域の数を把握するということが難しいということだと思います。委員が仰るように、別の手段で母数を把握することが可能なのかについては、担当課や税務担当課へ確認したいと思います。</p>
委員	<p>いくつかの項目に「周知を強化したい」ということが挙げられていますが、現在実施している事業を活用して、参加者へ別の事業のチラシ等を配ったり、コンビニなどが集まる場所に協力依頼をすることも効果があるのではないかと思います。</p> <p>そしてベ이스ターズの「グリーンコミュニティ事業」について、野球に興味がある子ども達が来ていると思いますが、これからの興味を作るために野球にあまり関連はない子ども達を対象にしてもいいのではと思いました。</p> <p>最後に、7ページの「西普天間跡地利用計画」について、お願いになりますが、先ほどもあったように、宜野湾市は特別支援教育に関して先進的な市町村だと思いますが、運営体制については不十分なところがありますので、ぜひ発達支援センターを設立して頂けないかと思います。その中に複合施設として、放課後児童クラブや児童センターを併設するなど考えていただければと思います。</p>
委員	<p>8ページのごみの量の問題について、婦人会では環境問題の取り組みとして、マイ箸、マイカップ、マイ皿などを積極的に実施しています。今後とも、基本目標を意識してこのような活動を推進していきたいと思います。</p>
事務局	<p>ごみの量について、宜野湾市、沖縄市、北谷町で負担金という形で支出しておりますが、ごみの量が増えると負担金が増え、逆に減ると負担金も減り、その分を他の事</p>

	業へ充当することにもつながります。市の社会教育団体が積極的にごみ減量に取り組んでいただき、また勉強会などを開催したいということであれば、所管課である環境対策課へつなぐことも可能なので、ぜひよろしく申し上げます。
委員長	それでは、これ以降何かご意見や質問がある場合は、意見提言用紙をご活用ください。続きまして、次第5「次期総合戦略の策定について」を事務局より申し上げます。
事務局	～資料6を用いて説明～
委員長	以上をもちまして、閉会といたします。活発なご意見をいただきありがとうございました。